



限界效用平均ノ法則, 其ノ説明, 其ノ適応及ビ其ノ修正(1)

河上, 肇

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 14(4):591-614

(Issue Date)

1913-04

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052010>



限界效用平均ノ法則、其ノ説明、其ノ適用

及ビ其ノ修正 (其二)

京都法科大学助教授

法學士 河 上

肇

本號所載
上篇目次

- 一、限界效用ノ平均ノ法則ノ要旨
- 二、限界效用平均ノ法則ノ説明
- 三、限界效用ノ平均ト市場價格トノ關係
- 四、全部效用極大ノ法則又ハ最大差益ノ法則
- 五、限界效用平均ノ法則ノ修正

一、限界效用平均ノ法則ノ要旨

本論ノ主眼トスル所ハ、限界效用平均ノ法則ニ修正ヲ加フルノ必要アルコトヲ明カニスルニ在ルガ、一般讀者ノ便宜ノ爲メ、先ヅ余ガ謂フ所ノ限界效用平均ノ法則ノ何物タルヤニ就キ成ルベク了解シ易キヤウ、序順ヲ追フテ其ノ大體ヲ次ギニ

説明スル。

先ヅ吾々が金ヲ使フ場合ニ就イテ考フルニ、何カ一品ノ品物ニ之ヲ纏メテ使フト云フコトハ稀デアツテ多クハ種々ノ品物ニ之ヲ分配スルモノデアアル。今マ茲ニ掲グル一例ハ、大阪ニ於ケル巡查ノ一家族ノ生計費ヲバ、或ル標準的ノ一家族ニ就イテ調べタルモノナリトテ、昨年七月中旬ノ大阪朝日新聞ニ掲載シテアツタモノデアアルガ之ニ依ルト、家族五人デ、一箇月ノ生計費ハザツト參拾圓主人ノ收入ト細君ノ内職ノ收入トデ、ヤツト支ヘ得ラル、コトニ爲ツテ居ル。ソウシテ其ノ一箇月ノ支出ノ内容ハ次ノ如クデアアル。

家 賃		六、五〇 門錢	薪	炭	一、五〇 門錢
贈		一六、七五	水道費	五〇	
米		一一、〇〇	理髮代 （子供二人ト主人）	二九	
		五、〇〇	湯錢 （五人共三日毎ニ入浴）	一、〇〇	
内 副 食 物		七五	新聞代	四三	
醬油、漬物					
合 計					二九、四七
			子供小遣、長屋交際費	一、〇〇 門錢	
			用慰料、文具、義務	一、五〇	
			購讀ノ書籍雜誌代		

今マ之ト比較スル爲メニ、更ニ雜誌「婦人之友」昨年三月號ニ出テ居タ一例ヲ舉ゲル。モ家族數ハ同ク五人但シ夫婦ニ小供二人、女中一人デアアルガ、月收ハ約百五拾

圓アツテ前ニ述ベタ巡查ノ收入ノ五倍ニ爲ツテ居ル。ソシテ其ノ生計費ノ内譯ハ次ノ如クデアル。

家賃	一七、〇〇 円	主人小遣	一〇、〇〇 円	公金掛金	七、〇〇 円
賄	五〇、〇〇	主婦及小供小遣	五、〇〇	濟生會月掛	六、〇〇
瓦斯費	三、〇〇	新聞雜誌代	五、〇〇	貯金	一五、〇〇
水道費	六〇	女中給料	四、〇〇		
電燈費	三、〇〇	國元送金	二〇、〇〇	合計	一四五、六〇

以上述ベタ二ノ例ヲ比較シテ見ルト、後ノ場合ハ前ノ場合ニ比シ、費用ノ總額ガ丁度五倍ニ爲ツテ居ル。從ツテ總テノ費用ガ各項目ニ亘ツテ何レモ増加シ居ルコトハ、毫モ怪ムニ足ラヌガ、而カモ前ノ場合ノ費用ノ各項目ガ、後ノ場合ニハ各々五倍宛ニ爲ツテ表ハレテ居ルカト云フニ、決シテサウハ爲ツテ居ナイ。例ヘバ、家賃ハ六圓七拾錢ガ拾七圓ニ増加シテ居ルガ、而カモ五倍ニハ爲ツテ居ナイ。又タ賄費モ拾六圓五拾錢ガ五拾圓ニ増加シテ居ルガ、コレ亦タ五倍ニハ爲ツテ居ナイ。ソウシテ前ノ場合ニハ全ク無カツタ所ノ費用、例ヘバ女中ノ給料ト云フヤウナモノガ、後ノ場合ニハ新タニ表ハレテ居ルシ、殊ニ前ノ場合ニ無カツタ貯金ト云フ項目ガ新

タニ表ハレテ來テ居ルナドハ、大ニ注意スベキ現象デアル。

扱テ茲ニ問題ト爲ルハ、費用ガ種々ナル項目ニ分レ居ルハ何故デアルカ、又タ各項目ノ支出高ガ費用ノ増加ニ比例シテ増加セズ、ソウシテ其ノ代リニ新タナル項目ガ表ハレ居ルハ何故デアルカ、ト云フコトデアル。而シテ此ノ問題ニ答フルモノハ即チ效用遞減ノ法則デアル。先ヅ何故ニ費用ガ色々ノ項目ニ分レルカト云フニ其ハ效用遞減ノ法則ノ説クガ如ク、一定ノ物ノ限界效用ハ其物ノ分量ノ増加ニツレテ遞減スルカラデアル。例へ、バ前ニ掲ゲタ參拾圓ノ生計費ヲ使ツテ居ル人ニ就イテ云へバ、米代トシテ其中拾壹圓ダケヲ使ツテ居ル。米ハ毎日ノ食料トシテ是非必要ナモノデアル。ソレ故、米ノ效用ハ甚ダ大キイ。從テ先ヅ第一ニ米ヲ買フケレドモ、併シ相應ノ分量ダケ買ツテ來ルト、最後ニ増加シタ一合ナリ一升ナリノ效用ハ大ニ減少シテ來ル。ソコデモツト米ヲ買フヨリモ、其ノ費用ヲ副食物ノ方ニ廻シタイト云フコトニ爲ル。併シ副食物ノ方モ、買入レル分量ガ増スニ從ツテ其ノ限界效用ガ減少シテ來ルカラ、五圓ナラ五圓ト云フ所マデ來ルト、モツト副食物ヲ買フヨリモ、同ジコトナラ其レダケノ費用ヲ新聞紙ニ廻シタイト云フコトニ爲ル。併シ新

聞紙モ一種トレバ、其次ノ新聞紙ノ效用ハ大ニ減ルカラ、收入ノ少イ人ハ一種ダケニ止メテ置クト云フコトニ爲ル。コレハ總テ前ニ掲ゲタ參拾圓ノ收入ノ場合ニ付イテ云ツタノデアアルガ、其ガ若シ殖ヘテ後ノ場合ノ如ク百五拾圓ニデモ爲ルト如何デアアルカト云フニ、例ヘバ新聞雜誌ノ費用デモ五圓ダケニ増シテ來ル。大阪朝日モトリ、大阪毎日モトリ、又タ其外ニ東京ノ新聞紙モトルト云フ風ニ、二種モ三種モ新聞紙ヲトルト云フコトニ爲ル。ソナ譯デ從前ノ費目ガ總體ニ於イテ其レ殖ヘテ來ルケレドモ、併シ何レノ場合ニ於イテモ、其ノ費用ノ増加ニ從ツテ限界效用ガ減少スルコト、爲ル故、ソコデ今迄ニ無カリシ所ノ新タナル項目、例ヘバ女中ノ給料ト云フガ如キモノガ新タニ表ハレテ來ルコトニ爲ルノデアアル。

此ノ如ク、吾々が金ヲ使フ場合ニハ、先ヅ一番欲シイト思フ物即チ效用ノ最モ大ナリト思フ物ヲ買ツテ來ルノデアアルガ、如何ニ欲シイ物デモ、相應ノ分量ダケ買フト、其物ノ限界效用ガ下ガツテ來ルカラシテ、或ル程度マデ來ルト、其ノ品物ノ購買ヲ中止スルコト、爲ル。然ラバ如何ナル點マデ來タナラバ、人々ハ物ノ購買ヲ已メルカト云フニ、其ハ貨幣ノ限界效用ガ物ノ限界效用ヨリモ將ニ大キクナラウト云

フ點デアル。若シ貨幣ノ效用ガ小サクテ貨物ノ效用ガ大キイナラバ、人々ハ其ノ效用ノ小ナル貨幣ヲ提供シテ、之ヨリモ效用ノ大ナル貨物ヲ買フコトニ爲ル。效用ノ小ナル物ヲ犠牲ニシテ、之ヨリモ效用ノ大ナル物ヲ獲得スルト云フコトハ、經濟上利益アルコトデアルカラ、聊カニテモ貨幣ノ效用ガ貨物ノ效用ヨリ小サイナラバ人々ガ經濟主義ノ原則ニ從フテ行動スルト假定スル限り、理論上ニ於イテハ、人々ハ猶ホ貨物ノ購買ヲ中止セザル筈デアツテ、ツマリ其ノ之ヲ中止スルニ至ルハ、貨物ノ限界效用ト貨幣ノ限界效用トガ正ニ一致セントスル時デアル。サレバ若シ之ヲ需給ノ關係ノ平衡ヲ保チ居ル場合ニ就イテ云フナラバ、一定ノ人ガ其ノ購買セル貨物ニ對シ感ジ居ル限界效用ハ、總テノ種類ノ貨物ヲ通ジテ平均スベク、其ガ又タ貨幣ノ限界效用トモ平均スベキ筈ニ爲ル。今マ之ヲ名ケテ限界效用平均ノ法則ト云フ。

二、 限界效用平均ノ法則ノ說明

限界效用平均ノ法則ノ由ツテ生ズル論理的經過ハ略ボ上述ノ如クデアルガ、以下更ニ此ノ法則ニ就イテ猶ホ少ク説明ヲ加ヘ置ク必要ガアル。

第一ニ總テノ品物ノ限界效用ガ一致スルト云フノハ同一ノ金額デ買ヘル品物ノ限界效用ガ一致スルト云フ意味デアル例ヘバ或人ガ五拾錢ノ金ヲバ次ノ如ク費シタトスル。

米	六合	拾五錢	玉子	五箇	拾錢	卷煙	草十本	五錢
酒	一合	五錢	葱	十本	壹錢			
醬油	一合	貳錢五厘	豆腐	二箇	四錢	合計		五拾錢
牛肉	二十匁	五錢	林檎	一箇	貳錢五厘			

此ノ場合ニハ是等九種ノ品物ノ限界效用ハ之ヲ買ツタ人ヨリ見ルト云フト總テ同一ナモノデアルト見ルコトガ出來ル而シテ此ノ場合ニ是等ノ品物ノ限界效用ガ總テ等シイト云フノハ米一合ト酒一合ト醬油一合ト牛肉一匁トノ限界效用ガ等シイト云フ意味デハ無イ限界效用ガ等シイト云フノハ同ジ金額デ買フコトノ出來ル色々ノ品物ノ色々ノ分量ニ就イテ云フノデアツテ之ヲ此ノ場合ニ就イテ云ヘバ例ヘバ同ジ壹錢デ買ヘル品物ノ分量ハ其ノ品物ノ種類ニ依ツテ其レ其レ次ノ如ク相違シテ居ル。

米	四勺	醬油	四勺	玉子	半箇	豆腐	半箇	卷煙	草二本
酒	二勺	牛肉	四匁	葱	十本	林檎	十分ノ四箇		

而シテ限界效用ガ等シイト云フノハ、此ノ如ク同ジ壹錢デ買フコトノ出來ル色ノ品物ノ色々ノ分量、即チ米ナラ四勺、酒ナラ二勺、醬油ナラ四勺、牛肉ナラ四匁、玉子ナラ半箇、葱ナラ十本、コレダケノ分量ノモノ、限界效用ガ其レ々相等シト云フノデアル。

然ラバ何故是等ノモノノ限界效用ガ等シクナルカト云フニ、若シ米ノ限界效用ガ他ノモノニ比ベテ特ニ大デアルナラバ、同ジ金デ買ヘルノデアルカラ、之ヨリモ限界效用ノヨリ小ナル他ノ品物、即チ割合ニ欲シクナイト思ツテ居ル他ノ品物ヲ買フコトヲ已メテ、特ニ欲シイト思ツテ居ル此ノ米ヲバ、今少シ餘計ニ買フベキデア。若シ又タ玉子ノ限界效用ガ特ニ小デアルトスルナラバ、其人ハ限リアル金デ餘リ欲シクモ思ツテ居ラヌ物ヲ五箇モ買ハナイデ、例ヘバ之ヲ一箇ニ止メテ置ク筈デア。サウスルト八錢ダケノ餘裕ガ出來ルカラ、他ノ八種ノ品物ニ之ヲ割リ當ツルナラバ、是等ノ品物ヲ買フ分量ガ壹錢宛殖ヘル譯ニ爲ル。ツマリ米ナラ四勺、酒ナラ二勺、醬油ナラ四勺、牛肉ナラ四匁、葱ナラ十本ト云フヤウナ譯ニ、玉子ヨリモモツト欲シイト思ツテ居ル品物ノ分量ヲ増加シ得ルコトニ爲ルノデ、言フマデモナク

其レガ其ノ人ニトツテ利益デアル。此ノ如クニシテ、同ジ金額デ購買シ得ラル、各種ノ貨物ノ一定分量ノ限界效用ハ、常ニ相平均セザルヲ得ザルコトニ爲ルノデア
ル。

扱テ同ジ金額例ヘバ壹錢ダケノ金デ買フコトノ出來ル各種ノ貨物ノ一定分量ノ限界效用ハ上述ノ理由ニ依ツテ總テ相平均スルコトニ爲ルノデアルガ、更ニ是等貨物ノ限界效用ハ、一定分量ノ貨幣ノ限界效用、即チ此ノ場合ニ就イテ云ヘバ、壹錢貨幣ノ限界效用トモ一致スルコトニ爲ル。何故カト云フニ、壹錢デ買フコトノ出來ル種々ノ貨物ノ限界效用ガ、若シ貨幣壹錢ノ限界效用ヨリモ大デアルナラバ、人ハ比較的ニ效用ノ少キ貨幣ヲ投ジテ、比較的ニ效用ノ大ナル是等ノ貨物ヲ購買スベキ筈ナルノミナラズ、苟クモ人々が經濟主義ノ原則ニ從フテ行動スル限り、聊カニテモ貨幣ノ效用ガ貨物ノ效用ヨリ小デアルナラバ、理論上ニ於イテハ、人々ハ猶ホ是等貨物ノ購買ヲ中止セザル筈デアルカラ、畢竟落付クベキ所ハ、常ニ各種貨物ノ限界效用ガ一致スルノミナラズ、其ガ又タ貨幣ノ限界效用トモ一致スル點デナクテハ爲ラヌノデアル。

三、限界效用ノ平均ト市場價格トノ關係

之ヲ要スルニ、一定ノ人ガ一定金額ノ貨幣ヲ犠牲トシテ購買スル總テノ貨物ノ各單位(其ノ單位ノ大小ハ貨物ノ種類ニ依リテ異ルモノニテ、安キ品物ノ一單位ノ分量ハ多ク、高キ品物ノ一單位ノ分量ハ少イト云フノハ無論ノコトデアルガ)ノ限界效用、及ビ之ガ購買ノ爲メニ犠牲トシテ提供スベキ一定金額ノ貨幣ノ限界效用ハ、皆ナ盡ク平均スルニ至ルモノデアアル。コレ余ガ限界效用平均ノ法則トシテ以上説明シ來ツタ所デアルガ、今マ本節ニ於イテハ、更ニ此ノ法則ト市場價格決定ノ法則トノ關係ニ就イテ、其ノ大體ヲ説明シヤウト思フ。

言フマデモナク限界效用平均ノ法則ハ、如何ナル人ニ就イテ云フモ總テ同様ニ行ハレ居ル法則デアルカラ、例ヘバ甲ナル者ガ、一定金額ノ貨幣ヲ以テ購買セル總テノ貨物ノ限界效用ガ互ニ相平均スルノミナラズ、乙丙丁等他ノ總テノ人々ガ、同一金額ノ貨幣ヲ以テ購買セル總テノ貨物ノ限界效用モ亦タ、互ニ相平均スル筈デアアル。例ヘバ市場ノ價格、米一升貳拾錢ニシテ、酒一升四拾錢ナリトスルナラバ、ツマリ米一升ハ酒五合ニ等シク、其ガ復タ貳拾錢ニ等シイト云フ理デアルガ(米 $\frac{1}{2}$ リ酒 $\frac{1}{4}$ リ)

二貨幣 40。即チ米 1 = 酒 $\frac{1}{2}$ = 貨幣 20。今マ甲乙ノ二人アリテ、甲ハ富者ニシテ下戸、乙ハ貧者ニシテ上戸ナリト假定シ、而シテ此ノ兩人ハ米ト酒トヲ次ノ如ク購買シ終ヘテ、剩ス所ノ貨幣又タ次ノ如クナリト假定スル。

甲		
貨幣	酒	米
① 廿錢	① 五合	① 一升
② 廿錢	② 五合	② 一升
③ 廿錢	③ 五合	③ 一升
④ 廿錢	④ 五合	④ 一升
⑤ 廿錢	⑤ 五合	⑤ 一升
⑥ 廿錢	⑥ 五合	⑥ 一升
⑦ 廿錢	⑦ 五合	⑦ 一升
⑧ 廿錢	⑧ 五合	⑧ 一升
⑨ 廿錢	⑨ 五合	⑨ 一升
⑩ 廿錢	⑩ 五合	⑩ 一升
⑪ 廿錢		
⑫ 廿錢		
⑬ 廿錢		
⑭ 廿錢		
⑮ 廿錢		
⑯ 廿錢		
⑰ 廿錢		
⑱ 廿錢		
⑳ 廿錢		

乙		
貨幣	酒	米
① 廿錢	① 五合	① 一升
② 廿錢	② 五合	② 一升
	③ 五合	③ 一升
	④ 五合	④ 一升
	⑤ 五合	
	⑥ 五合	

即チ甲ハ米十單位(即チ五升)ト酒二單位(即チ一升)トヲ買ヒテ猶ホ貨幣二十單位(即チ四圓)ヲ剩シ、乙ハ米四單位(即チ二升)ト酒六單位(即チ三升)トヲ買ヒテ貨幣ハ僅

ニ二單位(即チ四拾錢)ヲ剩スニ過ギストスル。扱テ此ノ場合ニ於イテ、甲ガ米一升ニ對シテ感ジ居ル限界效用(即チ第十番目ノ米一升ニ對シテ感ジ居ル效用)ハ酒五合ニ對シテ感ジ居ル限界效用(即チ第二番目ノ酒五合ノ效用)ニ等シクソレガ又タ貨幣貳拾錢ニ對シテ感ジ居ル限界效用(即チ第二十番目ノ貨幣貳拾錢ノ效用)ニ等シイノデアツテ、即チ是等限界效用ノ關係ヲ式ニ表ハセバ

$$* - 升 \parallel 酒五合 \parallel 貨幣貳拾錢$$

ト爲ル。之ト同様ニ、之ヲ乙ニ就イテ云フモ、其ノ米一升ニ對シテ感ジ居ル限界效用(即チ第四番目ノ米一升ノ效用)ハ、酒五合ニ對シテ感ジ居ル限界效用(即チ第六番目ノ酒五合ノ效用)ニ等シク、其ガ又タ貨幣貳拾錢ニ對シテ感ジ居ル限界效用(即チ第二番目ノ貨幣貳拾錢ノ效用)ニ等シイノデアツテ、即チ是等限界效用ノ關係ヲ式ニ表ハセバ、矢張り前ノ場合ト同ジヤウニ

$$* - 升 \parallel 酒五合 \parallel 貨幣貳拾錢$$

ト云フ式ガ立ツ。云フマデモナク、甲ガ米一升ニ對シテ感ジ居ル限界效用ノ絶對的ノ大サト、乙ガ米一升ニ對シテ感ジ居ル限界效用ノ絶對的ノ大サトハ決シテ同ジ

デハ無イ。若シ嚴格ニ之ヲ云フナラバ、甲乙二人者カ別々ニ感ジ居ル效用ノ大サハ到底比較サレ得ベキモノデハ有ルマイガ唯ダ通俗ノ意味デ、且ツ普通ノ場合ニ就イテ之ヲ云フナラバ、甲ハ富者デアリ乙ハ貧者デアルノダカラ、同ジ米一升ニ對シテ感ジ居ル限界效用ハ、乙ノ方ガ甲ヨリモ大デアルベキ筈デアル。乍併、茲ニ問題トスル所ハ、此ノ如ク別々ノ人ノ感ジツ、アル效用ノ比較デハ無ク、又タ其ノ絶對的ノ大サノ比較デモ無クテ、同ジ人ガ別々ノ物ニ對シテ感ジツ、アル效用ノ比例デアル。即チ甲ヨリ云ヘバ、其者ガ其ノ所有シ居レル米一升、酒五合及ビ貨幣貳拾錢ニ對シテ感ジツ、アル限界效用ハ共ニ相等シク、又タ乙ヨリ云ヘバ、其者ガ其ノ所有シ居レル米一升、酒五合及ビ貨幣貳拾錢ニ對シテ感ジツ、アル限界效用ハ共ニ相等シト云フダケノコトデアアル。

以上述ブルガ如ク、甲ヨリ云フモ又タ乙ヨリ云フモ、是等ノ人々ガ其ノ所有シ居ル米一升、酒五合及ビ貨幣貳拾錢ニ對シテ感ジツ、アル限界效用ハ共ニ相等シクナルノデアアルガ、之ハ實ニ甲乙二人ニ限ルノデハナイ。總テノ人ニ就イテ皆ナサウデアリ、總テノ人ヲ通ジテ

米一升＝酒五合＝貨幣貳拾錢

ト云フ式ガ立ツノデアル。而シテ茲ニ注意スベキハ、此ノ比例タル、畢竟スルニ、市場ニ於ケル是等貨物ノ交換比例、即チ市場價格ト全ク同一ニ歸スルモノダト云フコトデアル。詳ク云ヘバ、斯カル事情ノ下ニ於イテハ、米一升ハ貳拾錢ノ價格ヲ有チ酒五合モ亦タ貳拾錢ノ價格ヲ有ツベキ筈ニ爲ル。言ヒ、換フレバ、米一升ハ貳拾錢、酒一升ハ四拾錢ト云フ價格ニ落付カナケレバ爲ラヌ筈デアル。何故カト云フニ、若シ或ル貨物ノ價格ガ此ノ比例ヨリモ安イトスル。例ヘバ

米一升＝酒五合＝貨幣貳拾錢

ト云フノガ假リニ市場價格ノ現狀デアツテ、即チ市場價格ノ關係ハ

米一升＝酒五合＝貨幣貳拾錢

ダトスル。然ルニ之ヲ各個人ニ就イテ云ヘバ、前ニ述べタル如ク、其ノ限界效用ノ關係ハ

米一升＝酒五合＝貨幣貳拾錢

デアルカラ、ツマリ各個人ハ米一升ガ貨幣貳拾錢ニ等シイモノト思ツテ居ル。然ル

ニ今マ市場ノ價格ハ如何ニト云フニ、米一升ガ貳拾錢以下デ買ヘルコトニ爲ツテ居ルノダカラ、此ノ場合ニハ、人々ハ更ニ米ヲ買ヒ進ムベキ筈デアツテ、從テ供給ニ變動ナキ限り、米ノ需要額ハ其ノ供給額ニ超過スルコト、爲リ、市場ニ於ケル需要ト供給トガ完全ニ決濟セラル、ヲ得ザルコト、爲ル。然ルニ市場價格ハ需要ト供給ト相平均スル點ニ決定サル、ト云フノガ價格決定ノ原則デアツテ見レバ、ツマリ米ノ價格ハ到底斯卡ル點ニ落付クヲ得ズシテ、今少シク騰貴セザルヲ得ザル譯デアル。之ト同ジ理由ニ依ツテ、若シ前ト反對ニ

米一升五合ニ騰貴スル時

トスルナラバ、供給ハ需要ニ超過スルコト、爲ツテ、價格ハ矢張り斯卡ル點ニ落付クヲ得ズシテ、今少シク下落セザルヲ得ザルコト、爲ル。此ノ如ク、米一升ノ價格ハ之ヲ貳拾錢以下トスルモ將タ其レ以上トスルモ、到底其等ノ點ニ落付クコトヲ得ザルモノナルガ故ニ、畢竟スル所、前ニ述ベタルガ如クニ、其ノ價格ハ正ニ貳拾錢ニ決定セラレザルヲ得ナイノデアル。而シテ之ト全ク同ジ理由ニ依ツテ、酒五合ノ價格モ正ニ貳拾錢ニ決定セラレ、斯クテ是等貨物ノ市場價格ノ比例ハ、前述ベシ如ク

米一升ニ當テ五合ニ當テ其ノ限界效用

ト爲リ、而シテ此ノ比例ハ恰モ亦タ、各個人ガ是等ノ貨物ニ對シテ感ジツ、アル限界效用ノ比例ト正ニ一致スルノデアル。カクテ物ノ價格ハ其ノ限界效用ニ依ツテ決定セラルト云フ立言モ、以上ノ意味ニ於イテ之ヲ是認シ得ラル、ノデアル。

四、全部效用極大ノ法則又ハ最大差益ノ法則

以上述ブルガ如ク、各個人ハ市場價格ヲ標準トシ、同一價格ニ相當スル各種ノ貨物ノ一定量ノ限界效用ヲバ總テ均一ナラシメントスルモノデアルガ、此事ハ更ニ之ヲ換言シテ、各個人ハ貨物ノ購買ニ際シ其ノ獲得スル所ノ全部效用ヲ最大ナラシメントスルモノデアルト立言スルコトモ出來ル。而シテ限界效用平均ノ法則ハ、此ノ如ク換言スルコトニ依ツテ、更ニ之ヲ全部效用極大ノ法則(又ハ最大全部效用獲得ノ法則)ト名ケルコトモ出來ヤウ。今マ其事ヲ簡單ニ説明センガ爲メニ、例ヘバ甲某ナル者ガ、米及ビ酒ニ對シテ有セル效用ヲ次ノ如シト假定スル。

購買單位數

(米ノ一單位ハ一升
酒ノ一單位ハ五合)

米一單位ノ限界效用

酒一單位ノ限界效用

二	二四	二二
三	二三	二一
四	二二	二〇
五	二一	一九
六	二〇	一八
七	一九	一七

此表ノ中效用ノ大サヲ示セル數字ハ、效用ノ單位數ヲ示スモノデアル。モシ效用ノ單位ト云フハ不可解ノコトナリトノ非難アラバ、之ヲバ貨物ヲ購買スルガ爲メニ提供スルヲ客マザル貨幣ノ單位數ト看做スモ差支ナシ。例ヘバ最初ノ米一升ヲ買フ爲メニハ、已ムヲ得ザレバ貳拾五錢マデハ出ス、シカシ其ノ次ノ一升ヲ買フ爲メニハ、貳拾四錢マデシカ出サヌ、ト云フヤウナル意味ダト看做シ置キテ差支ナシ。扱テ此ノ場合ニ、米一升ノ市場價格ハ貳拾錢ニシテ、酒一升ノ市場價格ハ四拾錢(即チ酒ノ一單位五合ノ市場價格ハ、米ノ一單位一升ノ市場價格ト同ジ)ダトスル。ソウシテ甲某ナル者ガ、米ヲ六單位(六升)ト酒ヲ四單位(二升)トヲ購買セリトセバ、其ノ場合ハ米ノ限界效用モ酒ノ限界效用モ共ニ貳拾錢ナルガ故ニ、二者ハ互ニ平均スルコト、爲ル。而シテ其ノ場合ニ、彼ノ得タル全部效用ハ如何程ナルヤト云フニ、

$$(25 + 24 + 23 + 22 + 21 + 20) + (23 + 22 + 21 + 20) = 221$$

ナリ。而シテ茲ニ余ノ指摘セントスル所ハ、他ノ事情ニシテ變化ナキ限り、斯カル買ヒ方ガ甲ニトツテハ最大ノ全部效用ヲ獲得スル所以ト爲ル、ト云フコトデアル。例ヘバ假ニ其ノ甲ガ、米ヲ七單位買ヒ、其ノ代リニ酒ハ三單位買フニ止メタトスル。然ル時ハ、米ノ限界效用ハ一九トナリ、酒ノ限界效用ハ二一トナリテ、二者平均スルヲ得ザルコト、爲ルガ、之ニ依ツテ彼ノ得ル所ノ全部效用ハ合計幾何ト爲ルカト云フニ。

$$(25 + 24 + 23 + 22 + 21 + 20 + 19) + (23 + 22 + 21) = 220$$

トナリ、前ノ場合ノ二二ニ比シ一ヲ減ズルコト、爲ル。若シ又タ米ヲ三單位買ヒ、酒ヲ七單位買フコトニスルナラバ、前者ノ限界效用ハ二三トナリ、後者ノ其ハ一七トナリ、二者ノ間ニ甚キ懸隔ヲ生ズルコト、爲ルガ、之ト同時ニ、彼ノ得ル所ノ全部效用ハ

$$(25 + 24 + 23) + (23 + 22 + 21 + 20 + 19 + 18 + 17) = 212$$

トナリ、前ノ二二ニ比シテ九ヲ減ズルコト、爲ル。之ヲ要スルニ、一定金額(此ノ場

合ハ合計貳圓ニテ物ヲ購買スル場合ニハ、種々ナル貨物ノ限界效用ヲ平均セシムル程度ニ買ヒ入ル、ガ、最大ノ全部效用ヲ獲得スル所以ト爲ルモノニテ、即チ限界效用平均ノ法則ハ、之ヲ換言スレバ、全部效用極大ノ法則ト爲ル次第デアル。

全部效用極大ノ法則ノ成立スル所以ハ、人々ガ犠牲トシテ提供スル所ノ一定ノ效用(費用)ニ對シ、其ノ獲得スル所ノ效用ヲ最大ナラシメントスルガ爲メデアル。故ニ、獲得スル所ノ效用ニ着眼シテ立言スレバ、全部效用極大ノ法則トナルガ、若シ收支ノ關係ニ着眼シテ命名スレバ、更ニ之ヲ換言シテ最大差益ノ法則ト云フコトモ出來ル。茲ニ差益ト云フハ、廣義ノrentデアル所謂consumer's rentナドヲ云フ場合ノrentデアル。而シテ此ノ廣義ノrentニ關スル如上ノ議論ハ、狹義ノrent(地代)ニ關スル理法ノ説明ニモ適用セラレテ居ル。余ハ本論ニ於イテ何レ進ンデ此ノ地代ノ論ヲモ爲ス積リデアルガ、今ハ先ヅ以上述べタル範圍ニ於イテ、限界效用平均ノ法則ニ多少ノ修正ヲ加フルノ必要アルコトヲ論述シテ見タイト思フ。

五、限界效用平均ノ法則ノ修正

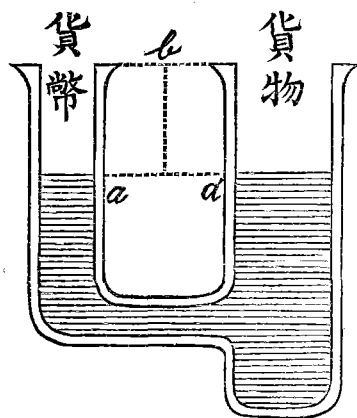
余ノ見ル所ニ依レバ以上述べタルガ如キ限界效用平均ノ法則ハ、人々ガ貨幣ヲ

貯蓄スルダケノ餘裕アル時ニ限り、其ノ適用ヲ見ルモノト信ズル。蓋シ人々ノ收入ノ未ダ充分ナラザルニ當ツテハ、差當リ衣食ノ料ニ缺乏シ居ルコト故、是等衣食ノ效用ハ貨幣ノ效用ヨリモ常ニ遙ニ大ナル點ニ止マリ居リ、二者ノ效用ハ決シテ平均スルヲ得ザルモノデアル。故ニ多少ノ貨幣ヲ入手スルナラバ、貯蓄ナド云フコトニ全ク考ヘ及ブノ違ナク、恰モ海綿ノ水ヲ吸フガ如ク、又タ燒石ニ水ヲ注グガ如ク直ニ其ノ貨幣ヲ以テ、米ヲ買ヒ鹽ヲ買ヒ薪ヲ買フコトニ爲ル。然ルニ、是等ノ生活必要品デサヘ思フヤウニハ買ヒ得ヌノデアルカラ、是等貨物ノ限界效用ハ貨幣ノ限界效用ニ比シ、依然トシテ遙ニ高キ程度ニ止ツテ居ル。斯カル理由ニ本キ、若シ人々ノ處分シ得ル貨幣ノ分量ガ或ル程度以上ニ少クナルト貨幣ト他ノ貨物トノ限界效用ノ間ニハ、必ズ若干ノ懸隔ヲ生ジテ來ルノデ、其ガ平均スルト云フコトハ、在リ得ヌノデアル。從テ斯カル場合ニハ吾々ハ一定ノ貨物ヲ買フニ當ツテ其ノ貨物ノ限界效用ト貨幣ノ限界效用トヲ比較スルナド云フコトハ意識的ニハ殆ド無クナルモノデアル。貨幣ノ效用ヨリモ貨物ノ效用ノ方ガ餘リニ高イノデ、其等ノ貨物ヲ買フベキヤ否ヤヲ決心スルガ爲メ貨幣ノ效用ヲ持チ出シテ來テ、之ト比較スル必

要ガ無クナルノデアアル。貧民ガ金ノ無イ癖ニ金ヲ粗末ニスルノハ恐ク斯カル心理ニ本クモノデ有ラウ。今マ貧民ナラザル多數讀者ノ爲メニ例ヲ設ケテ這箇ノ心理ヲ説明センニ例ヘバ、吾々ガ登山ノ途中ニテ財囊ヲ紛失シ「ボケツト」ノ中ニハ僅ニ拾四五錢ノ小錢ヲ持チ居ルニ過ギザル場合ニ遭遇シタトスル。扱テ其時、吾々ガ茶店ニ腰ヲ掛ケテ何ヲ食フベキカ何ヲ買フベキカト考フル場合ニハ、吾々ハ品物ト貨幣トノ效用ヲ比較シテ彼レ是レト考フナド云フコトハ是レナキモノニテ唯ダ蕎麥ヲ食フベキカ餅ヲ食フベキカ、煙草ヲ買フベキカト云フ風ニ、其ノ僅ナル金ニテ買ヒ得ル所ノ數種ノ品物ニ就キ、之ガ效用ノ大小ヲ秤量比較シ、之ニ依ツテ直ニ如何ナル品物ヲ買フベキヤヲ決心シ終ルモノニテ、即チ貨幣ノ限界效用ト品物ノ限界效用トノ比較ハ、殆ド其ノ意識ニ上ツテ來ヌノデアアル。今マ此ノ關係ヲ圖ニ示セバ左ノ如クナル。

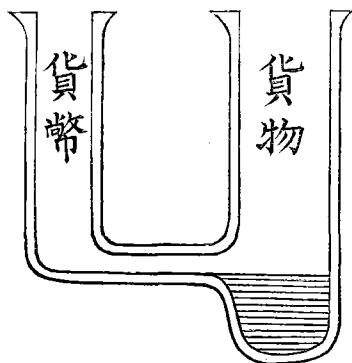
第貨物

圖 一



第

圖 二



第一圖ハ、既ニ一定額ノ貨幣ヲ貯蓄シ居ルダケノ餘裕ヲ有セル場合ノ關係ヲ示ス。此ノ場合ニハ、貨幣ノ水平(a)及ビ貨物ノ水平(a)ハ平均ヲ保ツ、而シテ、此事ハ、二者ノ限界效用ノ平均スルコトヲ示スモノデアル。猶ホ貨幣ノ水平面ノ高マルニ連レテ貨物ノ水平面モ高マリ、カクテ二者ノ水平面ト容器ノ頂上(b)トノ距離ガ次第ニ短クナル。コハ二者ノ限界效用ガ、其ノ分量ノ増加ニ伴フテ、次第ニ減少スルコトヲ表ハシ居ルモノデアル。次ニ第二圖ハ其ノ支配スル所ノ貨幣ノ分量ノ未タ充分ナラザル場合ノ關係ヲ示ス。貨幣ノ容器ニ未ダ何物モ止マリ居ラザルハ、未ダ貨幣ヲ

貯蓄スルノ餘裕アラザルコトヲ示シ、且ツ貨幣ノ容器ニ若干ノ貨幣ヲ入ル、モ、ソハ直ニ貨物ノ容器ニ流入スルノ事情ト爲リ居ルコトヲ示ス。

此ノ如ク二様ノ場合アルガ故ニ、貨幣ノ限界效用ハ常ニ貨物ノ限界效用ト平均スルモノナリテフ法則ニハ、多少ノ修正ヲ加ヘザル可ラザルコト、爲ル。而シテ余ガ、限界效用平均ノ法則ニ修正ヲ加フルノ必要アリト云フハ、唯ダ此點デアル、思フニ此事タル、之ヲ一見スル時ハ、極メテ些事タルガ如クナレドモ、實ハ種々ノ點ニ於イテ、此事ヲ明カニシ置クコトガ、甚ダ大切デアルト信ズル。而シテ爾カ云フ所以ハ以下地代ノ論ニ入ルニ及ンデ、自ラ明瞭スルノ機會ガアルデ有ラウ(未完)

(附記)

本篇ヲ編輯主任ノ手許ニ郵送シタ後デ、偶々本誌第十四卷第一號(本年一月發行)ニ掲載シアルリーフマンノ所説ノ紹介ヲ讀ンダ。右ハ丸谷學士ノ筆ニ成レルモノデ、「限界收益均等ノ原理」ト題シテアル。余ハ先ツ此ノ標題ヲ見テ、余ノ所謂「限界效用平均ノ法則」ハ之ヲ改稱シテ「限界效用均等ノ法則」ト云フノ適當ナルニ氣付イタ。平均ト云ツテハ average ノ意味ニ誤解サル、處ガアル、宜ク改メテ均等ト云フベシト思フ。次ニ丸谷學士ノ紹介文全體ヲ通讀シタル後、余ガ本論ニ於イテ述ベントスル所ノ大半ハ、既ニリーフマンニ依ツテ唱道サレテ居タコトヲ知ツタ。併シ余ノ本論ハ、タトヒ多クノ真チ法則其ノモノ、説明ニ費スベシトハ云ヘ、元ト之ガ修正ヲ主張スルガ主眼デアル上ニ法則ソノモノ、説明モ、リーフマンノ原文ハ知ラズ、丸谷學士ノ紹介文ノ範圍デハ、猶ホ簡略ナルヲ免レズト信ズルガ故ニ、多クノ點ニ於イテ重複ノ處アルニ拘ラズ、最初起草ノマ、之ヲ掲載シテ貰フコトニシタ。追テ次號ニ掲載スベキ續篇起草ノ折ハ、リーフマンノ論文モ篇ト參考シテ、可成丸谷學士既載ノ紹介文ト聯絡ヲ保ツ考デアル。

猶ホ上掲ノ本文中

「甲ハ米十單位(即チ五升)ト酒二單位(即チ一升)トヲ買ヒテ……………乙ハ米ヲ四單位即チ二升ト酒六單位(即チ三升)トヲ買ヒテ云々」

ト記載シタルハ、余ガ筆ノ誤リデ、右ハ

「甲ハ米十單位(即チ十升)ト酒二單位(即チ一升)トヲ買ヒテ……………乙ハ米ヲ四單位(即チ四升)ト酒六單位「即チ三升」トヲ買ヒテ云々」

ト改ムベキデアル。大切ノ點ヲ書キ誤ツテ、讀者ノ了解ヲ妨ゲテハト考ヘテ、不取敢之ガ訂正ヲシテ置ク(三月十九日追記)